

# 14 戦時下のコンニャク生産確保に 関する復命書

昭和19(1944)年

コンニャク生芋の生産確保を協議する会議に出席した群馬県庁の農務課職員の復命書です。

農務省は、食用だけでなく工業用・軍用としてもコンニャクの需要が急増しているとして、各県に生産確保を強く要請していました。

群馬名産のコンニャクが、戦時下に多様な用途で利用され、重要な資源とみなされていたことを示しています。

群馬県行政文書『特殊農産物雑事(蒟蒻原料統制関係)』(A0181A0S 828)

協議會、顛末

一日時 昭和十八年四月十五日午前九時ヨリ

二會場 東京市麹町区有樂町三ノ一帝國農會 會議室

三出席者

農林省

農政局特産課 江川技師外四名

食品局農産食品課 長澤技師外二名

四帝國農會

天明軒技師長外四名

五府縣(各府縣二一四名出席)

宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、新潟、長野、山梨、埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡、岐阜、(二府十四縣)

群馬縣

136

四會議ノ概況

一國民儀禮

二農林省(江川技師)挨拶

最近蒟蒻ノ需要ハ著シク激増シテ急激ナル供給増加ヲシナケレバナラナイ 従来ト違テ食用、工業用、軍用共何レモ増加シテ来テ 特ニ蔬菜不足ノ折柄重要視セラレ 食用トシテハアルカリ性食品トシテ營養上欠クベカラサルモノトナリ 又從來不消化物トカ 栄養炭酸ナキモノ等ノ批評カレテ中々決シテソシナモノデナラズ 立派ナ山炭水化物デハ六〇%ノ消化率アル食品トナリ 又工業用トシテハ近代 特ニ急速ナル進歩各達ラ遊ゲテ本邦ノ科學技術ノ進展ニ伴ヒ 秘密工業ニ屬スル幾多ノ重要原料タル位置ヲ占メ 石綿代用品 断熱工業用 電気ノ絶縁体、防水布用、人造皮革、ベルト等共ノ用途ハ實ニ増大シテオリマス

之ヲ供給ニ付テハ 従来ハ支那産、南洋産等ヲ輸入シテ 内地産ニカバリシテ 厄タカ事変後之モ杜絶シタガ爲ニ 愈々不足ヲ生ジテ来タニモ 杓ヲラズ 内地ノ生産モ 主要食糧農産物ノ増産ノタメ生産ガ志ラレテ来タ 傾向ニアル

昨年ハ特ニ減收ノ採デアラフテ之ハ早魃ニ依ル関西ノ方面ニ於テ著シク激デアラフノコシナ状態デハ 甚ダ憂慮ヲバキリトデアラフテ 何レカノ方策ヲ樹テ、増産シナケレバ ナラナクナリマシタ

併シ各種食糧農産物増産ノ関係ニアルカラ 急激ニ増産ハ不可能ト思ハレルガ之ニ支障ナキ限リ生産ノ確保ヲ願ヒタイ 特ニ空腹地利用、間作奨励等ニ依リ強テ主要食糧ノ烟ヲ奪ハナクモ 出来ルシ 又及當收量ノ増加ニ於テモ 未ダ相當ノ能率ヲアゲ得ラレルト思ハレル

群馬縣

137